

はじめに

かつて、王朝時代には首里城から恩納村、名護をはじめとする各番所を繋ぐ道は「宿道（しゅくみち）」と呼ばれ、道の両脇にはリュウキュウマツが植栽されていたといわれています。そのほとんどは戦災により喪失し、今では県内各地に蔡温松と称される大木がわずかに残っているに過ぎませんが、先人達はその時代から暑い沖縄の気候の中で、涼しく歩くことのできる環境を創っていた、そのジンブン（知恵）に驚きさえ覚えます。

時代は変わって、現在の沖縄県は観光の島となり、那覇市は沖縄県の県都としての行政機能を担いながら観光の玄関口としての「美ら島の観光交流都市」を目指してまちづくりを進めています。

街路樹は、街づくりにおいて市民や観光客に最も身近に存在し、その地域の市民に直接的に生活との関わりを有するばかりでなく、街なみ景観に大きな影響を与え、観光客にとってはまちのイメージや魅力を感じる大きい要素であります。

この度、街路樹についてこれまでの剪定士まかせの管理（剪定）から、歩道幅員や樹木の自然樹形を活かした管理のあり方を示した「那覇市亜熱帯街路樹管理ガイドブック」を作成することにしました。

本書に基づき那覇市の街路樹を適正に管理することにより、那覇の街なみがみどり豊かで四季が花で飾られ、那覇市のテーマである沖縄特有の自然、歴史、文化環境に調和した亜熱帯庭園都市の創造に寄与できれば幸いです。

平成25年1月

那覇市建設管理部 道路管理課

序章

(1)目的

この那覇市亜熱帯街路樹管理ガイドブックは、那覇市の道路植栽（街路樹）について、剪定を主体とした街路樹の管理手法のあり方を確立し、計画的に管理できるようにすることで、観光交流都市にふさわしい那覇市の街並み景観に導くとともに、快適で暮らしやすい市民の生活を支える道路環境を創出することを目的とするものである。

そのため、市内全域の街路樹について現況調査を行い、道路植栽の状況を把握したうえで客観的に評価するとともに、市民に説明できる資料として剪定を含む望ましい管理のあり方を道路や植栽樹種ごとに提示する。

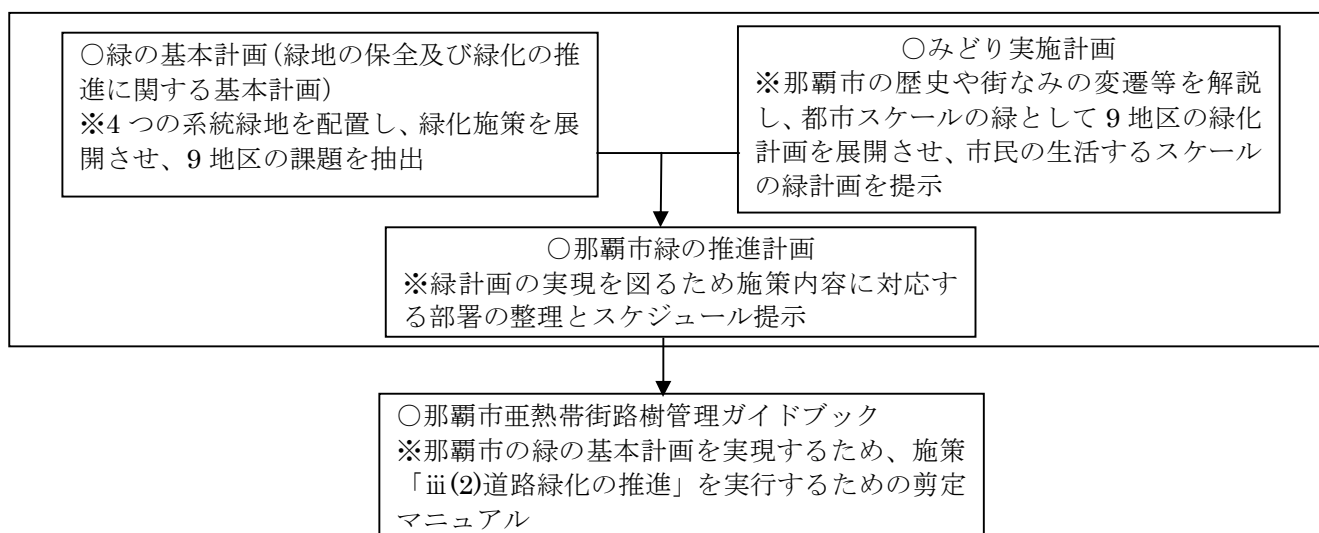
(2)那覇市亜熱帯街路樹管理ガイドブックの位置づけ

那覇市の緑化に関する上位計画には、都市緑地法にもとづいて策定された「緑の基本計画（緑地の保全及び緑化の推進に関する基本計画）」と「みどり実施計画」がある。前者は平成29年の緑地確保目標量を定め、4つ（レクリエーション、防災、景観、環境）の系統緑地を配置し、各種施策を展開させ、那覇市を9地域に区分したうえで各地域の緑化状況を踏まえ緑化の課題を整理したものである。

後者のみどり実施計画は、緑地の確保目標量は基本計画と整合をとり、那覇市のみどりの状況を歴史的な変遷を解説し、みどりに対する基本的な考え方を示しながら計画を展開させている。その内容は、みどりの基本計画で提示された課題に対応し、一步踏み込んで計画を具現化したもので、ある意味では緑の基本計画を補完している。

また、みどりの基本計画で掲げた緑地の確保目標量の実現を図るため、所内での連携を図った那覇市緑の推進計画がある。したがって、この那覇市亜熱帯街路樹管理ガイドブックは、この二つのみどりに関する上位計画を受け、街路樹の管理の中で剪定を実践する際のマニュアルとして位置づけ、今後の現場施行に際して引用・参考に用いるものである。

□位置づけ



(3)作業フロー

